



ふくい政策デザイン

クリエイターズガイド

政策デザイン

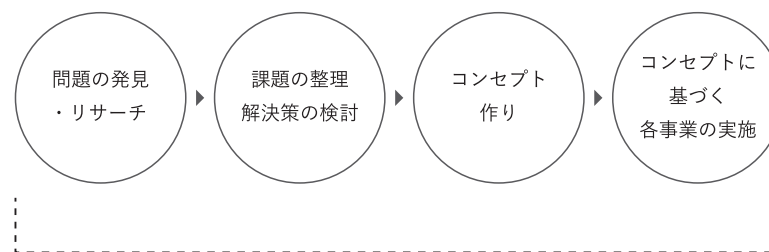
これまでにはない新たな政策を生み出していくためには、物事の本質を見極め、自由な発想で解決のアイデアを示す「デザイン思考」が求められます。また、政策づくりのプロセス段階からデザイナーやクリエイターなど多様な専門人材が議論に参加し、ともに政策を作り上げていく必要があります。

このため、福井県では、新たな県政運営スタイル『福井県政策オープンイノベーション』の一環として、デザインの活用領域を「産業分野」から「政策分野」へと広げ、担当部局と県内外のデザイナーをつなぎ、アイデアを政策に反映する仕組みを構築しています。

行政とクリエイターが協働

クリエイターが政策づくりに参加し、新しい発想で公共のあり方を考える「パブリック・デザイン」を実践するとともに、顧客視点で物事の本質を見極める「デザイン思考」に基づき、「価値創造型」の行政を実現していきます。

政策デザインのプロセス



全領域でクリエイターが参加



知事とクリエイターとの「現場でトーク」



クリエイターとの政策検討ワークショップ

協働するクリエイター

01	雨宮 卓	株式会社ヒューマン・ビーイング	13	田中 日奈子	hiyocoya.design
02	石田 美和	みわくデザイン	14	虎尾 弘之	株式会社真空ラボ
03	内田 裕規	株式会社ヒュージ	15	新山 直広	TSUGI LLC.
04	景山 直恵	アーチザン&パートナーズ	16	野路 靖人	六感デザイン
05	川島 洋一	福井工業大学環境情報学部デザイン学科	17	丸山 晴之	株式会社ヒヤッカ
06	黒田 和彦	k2productions	18	aiMIKI (アイミキ)	aiMIKI STUDIO
07	坂田 守史	株式会社デザインスタジオ・ビネン	19	三田村 敦	GOOD MORNING
08	佐藤 実紀代	HOSHIDO	20	村中 智宏	株式会社オルグワークス
09	真田 悦子	GOOD MORNING	21	森 一貴	
10	鈴木 和雄	鈴木和雄デザイン室	22	山本 智恵美	wit design
11	高山 友樹	he/rbest	23	吉村 正照	仁愛大学人間学部コミュニケーション学科
12	武内 展子	ブレイス			



株式会社ヒューマン・ビーイング

雨宮 卓

マーケティング
広告プランニング

01

プロフィール

東京都生まれ。マーケティング&SP企業にコピーライター・プランナーとして入社。自動車メーカー、食品メーカー、IT企業などを担当。1995年来福。各種コミュニケーション計画を提供。福祉を視点に取入れた「ソーシャルアクション提案」も検討中。

活動実績



(株)一本義久保本店
「リブランド」 コミュニケーション全般

数年前よりテレビ・新聞などの広告キャンペーンを通じて、一本義さんならではの酒造りスローガン「ココデシカ、ウマレエナイ、モノ。」を明文化。そのスローガンをベースに、「どこにもない辛口酒・高級酒」にリブランドした一本義さんの思い、どこにもない日本酒の魅力を既存メディアをはじめ、ホームページなどのオウンメディアでアピールした。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

政策をどう見せるか？ 行政側の一方向的なものではなく、住民側が政策にどんなニーズを持っているのかという双方向性が見えてくるといいなあ、と思っています。「伝える」「聴く」が大事ですね。

Q もし私が知事になったら？

「ソーシャルアクション日本一！」
「-2は人それぞれ違う。」



(株)福井新聞社
企業・県民を巻き込んだSDGsキャンペーン

企業においても社会的責任の一環として、SDGs活動の展開が必須となりつつある。こうした活動を県内で浸透させようと、2030年のロングランキャンペーン「サステナ！2030」がスタートした。本キャンペーンにおいて、ブランドづくりとともに、県内小学校での教材にもなるような誌面編集にも携わった。

Q デザインで大事にしていること

言葉とか写真とかイラストとか、そしてそのままを取り巻く、多様な「強み」「弱み」「機会」などの切り口を探れたらいいなと考えています。



みわくデザイン

石田 美和

グラフィックデザイナー

02

プロフィール

デザインプロダクションbaus入社、2003年中野勝巳デザイン室、[D+]のユニットに参加。2016年みわくデザイン設立。ポスター、パンフ、イラスト、イベント広報、パッケージ、ウェブのデザインを制作。

活動実績



Fukui Art Baton アート展
「至高の逸品展」フライヤー

音楽とアートで地域をつなぐイベント Fukui Art Batonのアート展示のフライヤー。タイトルもデザインしました。

Q もし私が知事になったら？

芸術文化に力を入れる。
デザインを多数決で決めない。



フクビSDGs
宣言ポスター

フクビ社内に掲示されるSDGs宣言ポスター。イラストとキャッチコピーの文字も制作しました。

Q

政策デザインを通じて感じたこと

県庁は部署が細かくあり、さまざまな事柄について取り組んでいることを知りました。今まで知らなかった県庁の人の考えや、他デザイナーの考えを知る機会があるのはいいことだと思います。

Q

デザインで大事にしていること

相手の話をしっかり聞いて必要なこと不要なことを整理して、新しい気持ちで丁寧に制作することを心がけています。新しいことに挑戦するのが好きです。



株式会社ヒュージ

03

内田 裕規

クリエイティブディレクション
アートディレクション

プロフィール

Artisan&Partnersから独立後→HUDGE co.,ltdを立ち上げ、FLAT、北陸古民家再生機構、CRAFT BRIDGE、千年未来工芸祭など様々なプロジェクトの企画ディレクション

活動実績



さかほまれ プロモーション

「米、酵母、水。すべてが県内産の大吟醸酒を作りたい」という思いから、2010年度からはじまった福井県農業試験場始まって以来の挑戦である酒米開発。そして、10年の歳月をかけて生まれた酒米「さかほまれ」をプロモーションするために動画とパンフレットの制作に携わりました。



千年未来工芸祭 プロデュース

2018年から始まったクラフトマーケット。コンセプトからタイトル、ビジュアルイメージ、会場全体デザイン、演出まで全体をプロデュース。現代を生きる方々に工芸や手仕事を身近に感じてもらうと共に、地域を越えて、様々な点と点を繋いでいき、工芸をはじめとした日本のものづくりを未来へ継承していく事を目指している工芸祭です。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

「デザイン思考」がまずは行政の皆さん全員に浸透し、そして、県民の皆さんに浸透する事で、かつてのパウハウスのようにデザインで世の中を良くする場の聖地に福井県がなれる事を願っています。

Q もし私が知事になったら？

世界中から学びに来る現代のパウハウスのようなデザイン学校が出来るように動くかと思っています。

アーチザン&パートナーズ

04

景山 直恵

デザインコンサルタント
グラフィックデザイナー

プロフィール

福井県政策デザインアドバイザーとして県庁各課と県内クリエイターとのワークショップを開催。デザインワークの他、コンサルティングやものづくりセミナー等、県内外の企業経営者にデザインの重要性と効果的な活用ノウハウを、わかりやすく啓発する活動を行う。



活動実績



福井県パブリックデザインラボふくい ロゴマークデザイン

福井県庁には地名の由来となった「福の井」という井戸がある。ワークショップで使用している付箋のイメージで、福井の「井」の字を表現、ラフなラインで角を丸くし、ランダムに配列することで、自由や楽しさを取り入れたデザインに。水の豊かな井戸のように、常に素晴らしいアイデアや情報が溢れ、ここで暮らす人々が集う場所を目指す。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

地元のクリエイターが県政に関わる良い機会となりました。デザイナー、そして一県民として、県政の様々な問題や課題をデザイン思考で解決するこの場所を大切にしたいと思います。

Q もし私が知事になったら？

県庁株式会社にある。



(株)米五 みそ楽 ネーミング ロゴマークデザイン(カリグラフィー西山有紀)

「たのしいが、みそ。」をコンセプトに、味噌のある生活を楽しむことが「ミソ(重要、特色、工夫や趣向をこらす)」となる空間。天保2年(1831年)から作り続けてきた米五の味噌と、福井の食と発酵文化を伝える品揃え、手作り味噌教室、味噌を使ったカフェメニューで、「見つける」「作る」「食べる」といった、味噌との「出会い」を楽しむ。

Q デザインで大事にしていること

デザインは組み立てるという意味があるので、見た目だけではなく、中身もバランス良く組み立てることを大切にしています。人や社会、環境のことを考え、幸せにするデザインを目指します。



福井工業大学環境情報学部デザイン学科
F's Design Studio

05

川島 洋一

環境デザイン
地域デザイン

プロフィール

大阪生まれ。千葉、スウェーデン、京都で建築を学ぶ。フリーの制作活動、芸大・美大などの講師を経て、2002年福井工業大学に着任。デザイン学科の設立を担当し、大学の受験者数V字回復を達成。現在、同学科主任教授。地域連携研究推進センター長。

活動実績



福井工業大学 学生募集パンフレット
ディレクション

学生募集用パンフレットの総合ディレクションを担当した(2009~2017年)。この業務は、大学事務局と協力業者とのチームにより実施され、全体を統括する立場で基本コンセプトやデザイン方針の立案・コピー、関連広告の監修を担当した。古い工業大学のイメージを刷新するため潜在意識に働きかけるコンセプトづくりに注力した。

福井工業大学キャリアセンター

2011年にオープンした教育施設のインテリアデザイン。築40年を超える既存校舎の古い教室と会議室275㎡をリノベーションした。学生への就職指導および企業関係者が来訪するオフィス空間と、就職情報を集約する情報コアとを、教職員と学生の多様な活動が視覚的に何層も重なり合う「多層時間モデル」として計画した。意匠学会作品賞受賞。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

北欧に住んで気づいたこと。北欧はどこも小国でヨーロッパの端っこなのに豊かな暮らしをしている。ITとデザインの活用、合理的な社会に秘密があった。デザインは弱者の武器。福井もぜひ。

Q もし私が知事になったら？

デザインがリードする もっと幸せな福井県へ

Q デザインで大事にしていること

造形ではなく、「時間」の観点から現代生活を見直すこと。情報化が進むほど人間の行動は細分化し多忙になるけど、寿命には限界がある。だから必然的に、時間が多層に重ね合わされます。



k2productions

06

黒田 和彦

映像ディレクター
コピーライター
CMプランナー

プロフィール

コンサート制作会社でFM福井、FM石川の開局プロデュースを担当。1995年k2productionsを設立し広告の企画制作を手掛ける。2005年クリエイティブユニット「D+」に参加。コピーを大切にCMのプランニング&ディレクションを心がけている。北陸コピーライターズクラブ会員。

活動実績



福井県観光プロモーション映像
「福の便り」

ふるさと福井を離れ10年。久し振りの里帰りで地元の友だちに案内された福井は新鮮な驚き。福井県出身のタレント・高橋愛さん自身の想いをそのまま映像に。最後は大切な人に、素敵な福井を案内したいと自分で漣いた越前和紙のハガキに綴ります。一年を通じて撮影した福井のいいものいいところ。何よりも県民の笑顔が見た人を福井に誘います。



福井パールライス
TVCM

米の販売拡大が目的のCMですが販売に直接つながるアプローチはせず、米やごはんにまつわる暮らしの中のエピソードを集めて、米処である福井県の人々が誰でも持っているであろう「やっぱりごはんが好き」という気持ちを揺り動かせば販売につながると考えました。「ごはん」には神様はもちろん、たくさんの温かい意味も入っています。2020-2021HCC賞受賞。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

県庁は様々な課題が膨大に寄せられる場所だと理解できた。担当が専門外の時はもちろん、専門部門担当となっても民間の知恵を借りるのは非常にいいこと。オリエンテーションの質が高くなります。

Q もし私が知事になったら？

まずは、クリエイティブ・ディレクターをくぼに置く。



株式会社 デザインスタジオ・ビネン

07

坂田 守史

デザインストラテジー
(戦略デザイン)

プロフィール

地域や企業のブランディング・商品開発・地域計画・観光まちづくりなどの戦略構築・構想づくりに携わり、プロジェクトのスタートアップから実現に向けてのプロセス構築、デザイン制作に至るまで横断的に手がける。

活動実績



make.f project

福井市の主催で行われているmake.f projectのプログラムディレクターと企画運営に携わる。県内外の様々なバックボーンをもつ人たちが福井に集い、「ともに学び ともに作る」ことを通じて、次代のデザインの可能性を模索し、未来に問いを投げかけるプロジェクトを創出している。



ふくのね

福井県内の様々なプレイヤーが体験プランづくりにチャレンジする「ふくのね」。事業企画・運営のコンサルティングに携わり、県内の固有な文化やアクティビティを活かした観光まちづくりの一環として全体のコーディネーションを務める。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

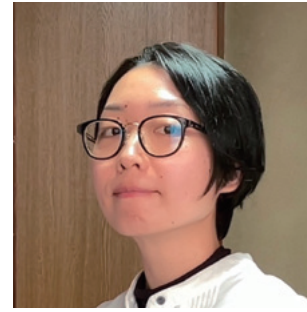
政策の事業構築段階から一緒に模索していくことで、対象や目的が鮮明になる事業設計につながっていると感じます。また、パブリックな状況と一緒につくっていくプロセスが楽しいです。

Q もし私が知事になったら？

自然の中でゆっくり過ごせるまちをつくりたいですねえ。。。

Q デザインで大事にしていること

デザインは新しい関係をつくるものだと思います。そして、その関係がよりよくなるためには、どんな状況をつくっていくとよいだろう？そういう視点を持ちながら考えつづけています。



HOSHIDO

08

佐藤 実紀代

編集業

プロフィール

1981年、福井市生まれ。金沢大学美術コース卒。印刷会社、書店、デザイン事務所を経て出産を機に独立。2017年に本を作る本屋「HOSHIDO」をオープン。初出版となる『はしはうたう』をリリース。FM福井番組審議員。福井県立図書館運営懇話会員。

活動実績



交通安全家族!

反射材着用の促進を目指した福井県の交通安全活動において、FM福井のCM放送を活用してラジオドラマを制作。ラジオドラマの脚本とSNSによる情報発信を担当。



はしはうたう

福井の地元で本を作ることをモットーに初の出版として、小浜市の伝統工芸である若狭塗箸にスポットを当てその職人の生涯を取材し、書籍化を行なった。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

自分が生活する福井県に多くの課題があり、それぞれの分野にデザイン的思考が加わることで課題解決に向かって楽しく展開することができる余地があることが改めてわかった。

Q デザインで大事にしていること

表に出したのものによって、人々が笑顔になれるかどうか？心がくすぐられるかどうか？をちょっと気にして作っています。

Q もし私が知事になったら？

私に知事になれる柱量は
ありませんが...

お金や保証に依存
しなくてもやりたいこと
工夫してやるコミュニティー
つくれたらいいな、と
思います。 333



GOOD MORNING

10

真田 悦子

グラフィックデザイン
企画
ディレクション

プロフィール

滋賀生まれ。京都工芸繊維大学卒業。株式会社エイト(現エイトブランディングデザイン)を経て2012年に三田村敦と共にGOOD MORNING 設立。MONO CAN「だれでもデザイン教室」講師・コーディネーター。福井工業大学非常勤講師。

活動実績



「めがねフェス」

一般社団法人福井県眼鏡協会

「めがねよ、ありがとう。」が合言葉のめがねの感謝祭。たくさんアイデアとユニークな企画、めがね愛に溢れためがねづくしの会場には全国からめがね好きが集まり、リピーターやファンの多い唯一無二のイベントへと成長しています。めがねの作り手と使い手が触れ合える機会の創出が評価され、2018年グッドデザイン賞を受賞しました。



「交通安全家族！」

福井県県民安全課

政策デザインWSから生まれた反射材着用啓発プロジェクト。お洒落に反射材の服を着こなしたマネキン一家が福井のあちこちに出没。家族の物語をラジオドラマCMを核として展開し、自然と楽しく交通安全への意識を高めることを狙っています。通常の交通安全活動とは一線を画した取り組みは、県外からも注目されています。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

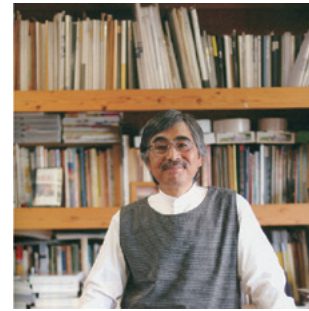
商業を中心とした民間の仕事ではどうしても解決できない課題はたくさんあります。政策デザインを通じて、デザインの力が及ばなかった分野で課題を解決できるのではないかと期待しています。

Q もし私が知事になったら？

人がいない公園を人が集まる公園にします！

Q デザインで大事にしていること

おはよう、デザイン。新しいもの、新しいデザインの誕生は、みんなに希望を与える出来事。世の中に新しいデザインを送り出す楽しみと共に、その後の成長を見据えたものづくりを心がけています。



鈴木和雄デザイン室

10

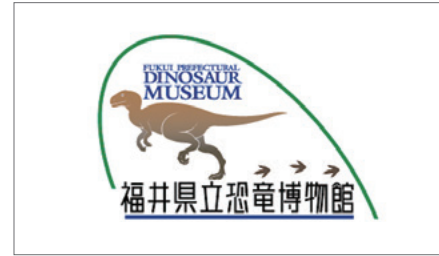
鈴木 和雄

デザインコンサルティング
グラフィックデザイナー

プロフィール

71年から14年間、東京にて西武百貨店・パルコ等の流通、雪印食品・マツダ自動車工業・サンヨー・コスギ・ピノーレ・カクタス・KENZO等の宣伝広報を担い、現在福井を拠点に県内外のデザイン及びデザイン面からの都市空間計画・サインデザイン計画に携わる。

活動実績



福井県立恐竜博物館

福井県勝山地区で多くの化石が発見されている肉食恐竜をモチーフにデザインしたものです。足跡は恐竜の歴史を広く紹介する施設であることを、全体を覆う円弧は当建物をイメージさせ、古生物や地球の歴史を研究する施設であることを意味しています。色彩的には、グラデーションで力強さと敏捷性を表現し、緑色は山並みと融合した施設であることを強調し、青色は九頭竜川を表し、水の豊かな福井県をイメージさせます。



福井県立音楽堂 ハーモニーホールふくい

ホールとその周辺の「ハーモニー」を重視したデザインです。池に面した建物が水面に映り込み、ホールを取り囲む自然の中から吹く優しい風が波紋を作ります。大ホールと小ホールの外観、ホールと池面の影、Harmony Hall Fukuiの頭文字のH H F、そして五線譜とが織り成すハーモニーを形にしました。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

デザインには、コンセプト(意味・理由)があります。意味のないデザインは機能しません。デザインは共感を誘発します。政策デザインでも、コンセプトを明確にした上でデザインする必要があります。

Q デザインで大事にしていること

サービスの受け手はどう感じ、どう行動するか？受け手や運営者や、社会全体、関係者全員が幸せになるにはどうすべきか？目の前の人からエコシステムまで、広い視野を持ちアプローチを行います。

Q もし私が知事になったら？





he/rbest

11

高山 友樹

グラフィックデザイナー
WEBデザイナー
デザインディレクター

プロフィール

福井のデザイン事務所「若葉グラフィック」で勤務後、デザイン事務所「he/rbest」を設立し、紙媒体、新聞広告、WEB、動画撮影、編集、SNS、地方創生マーケティングなどで企業案件などマルチトータルブランディングに携わる。FDA(福井デザインアカデミー)コーディネーター。

活動実績



ふるさと納税自治体連合 プロモーション業務

近年のふるさと納税の利用目的が返礼品になってしまっており、本来のふるさとへの感謝や応援の気持ち、税の使い方を自ら決めることを再認知してもらうプロモーション業務を行いました。公式Twitter、Instagram、Facebookを開設しての情報発信、全国自治体を結んだ公式noteを開設し自治体の返礼品に対する思いや情報をアップ、11月末にはYouTubeでシンポジウムを全国ライブ配信など、トータルでブランディングしていきました。



RUNNY CHEESE様 イラスト制作

(株)ソーホーズインターナショナル様のチーズを使った料理・スイーツが美味しいお店「RUNNY CHEESE」様のイメージイラストを制作。太めの線で強弱をつけることでかっちりとしたイメージにしつつ、サブカル的な要素と女の子らしい雰囲気をミックスしました。店内にポスターとして飾ったり、スタッフTシャツとしても利用していただき、オリジナルグッズとして店頭やオンラインでの販売もして頂いております。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

政策として「デザイン」及び「デザイン思考」を取り入れる事は素晴らしいです。全ての政策にデザインが必要とは思いませんが「何故こうなった？」の摩擦が少なくなれば、より良い街、良い県になると思います。そんな場を与えて頂いた事に感謝します。

Q もし私が知事になったら？

駅前「デザインランド」
DLD を作る！

Q デザインで大事にしていること

クライアントだけではなく、そのデザインを見つける人、見る人の気持ちに寄り添うような心がけています。全てのデザインに意義と意味があると思っています。綺麗やかっこいいだけの「無意味」なデザインでないよういつも思考は一歩先を見るようにしています。



ブレイス

12

武内 展子

グラフィックデザイン
空間デザイン
デザインコンサルティング

プロフィール

1997年フリーランスに(屋号：ブレイス)。
●グラフィックデザイン[ツール・広告のデザイン]
●空間デザイン[おもてなしのデザイン]店舗ディスプレイ
●販売促進プラン[企業を魅せるブランニング]
平成29年度 福井県観光アカデミー修了

活動実績



(有)長兵衛 ／敦賀さざなみリゾート ちよべい

宿泊と食事を提供する「海辺の宿 長兵衛」のリブランディング。事業継承した女性経営者(女将)の理念と顧客(宿泊客)へのアンケート調査を経て、プロジェクトチームを編成し店名やロゴマーク等を制作。(2020年)



(株)平成大野屋

大野市の地場産品の観光拠点の1つ。コアターゲットの心理と目線の再認識、既存商品什器と商品特性(カテゴリやパッケージデザイン)をいかしたディスプレイ手法を、VMD(ヴィジュアルマーチャンダイジング)講座でワークショップ開催。リピートを狙える商品構成を強みに、一年を通じ季節感を大いに感じられるゾーニングに。(2019年)

Q 政策デザインを通じて感じたこと

あらゆる政策一つひとつが印象以上に深くありますので、対象となる県民の方によりスピード感を持ってストレートに伝わる表現になればと考えます。また、通常業務にない楽しさも感じます。

Q もし私が知事になったら？

今の知事が良すぎて、思い浮かびません。

Q デザインで大事にしていること

コアターゲットを中心に、共感を得るコンセプトで立てたプランを遂行できる環境づくり。



hiyocoya.design

13

田中 日奈子

グラフィックデザイン

プロフィール

福井県内で主にグラフィックデザインを生業にしつつ、ひとやまちに関わりながら学び合える関係や環境を模索中です。

活動実績



福井市企業局広報誌 上下水道のミカタ

福井市下水道部広報誌「下水のミカタ」から福井市企業局上下水道部広報誌に移行し、統投でページデザイン等を担当。専門的になりがちな情報をゆるく面白く伝えることを心がけ、なるべく手描きの文字やイラストを入れ込みながらページレイアウトをしています。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

県のような事業に関わることが出来るのは、シンプルに気付きや学びがあると思います。これまでの経験を活かすことや視点を広げて包括的なアクションを求められると感じます。

Q もし私が知事になったら？

馬足前 ジェンガ化計画!!



マイボトル運動ロゴデザインなど

福井県循環社会推進課の事業、マイボトル運動PRにともなうロゴデザイン等。親しみやすく使いやすいデザインで、キャンペーン運動の普及と環境問題への意識につながることを目指しました。

Q デザインで大事にしていること

いろんな環境や条件はありますが、クライアントさんとの対話や背景からより良い形を探索しつつ、何事も自身の経験にもなるよう心がけています。



株式会社真空ラボ

14

虎尾 弘之

ブランディング
クリエイティブディレクション
コピーライティング

プロフィール

コピーを軸に、インナー&アウトター一体型の企業ブランディング、多様な事業・商品のコンセプト立案、広告の企画制作などを展開。地域企業が、独自の新しい価値を生み出していくサポートを行っています。トータルクリエイティブオフィス真空ラボ、所属。

活動実績



出雲グループの企業・事業ブランディング

神社を基点にターゲットの人生サイクル描くことで「心のふるさと」を目指すプライダルブランド構築をサポート。ビジョン設計から、全部署・全スタッフがミッションを自分の強みへと落とし込むインナーブランディングまで実施。同時に、メッセージの一貫した各事業のコンセプト立案やネーミング、広告制作などを行っています。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

解決プロセスの発掘、さらには解決すべきテーマそのものにアプローチすることから始める！という姿勢は素晴らしいです。次は、もっと具現化する方法の探求でしょうか。

Q もし私が知事になったら？

「日本より有名な福井へ。」



サンデーマウンテン・オリジナルブランド「DVERG」のコンセプトメイク&ネーミング

アウトドア用品の販売をオンラインまたは実店舗で展開する(株)カンパネラ。そのオリジナルブランドのコンセプトメイクとネーミングを手掛けました(当社にてロゴデザイン作成)。モチーフは妖精「ドワーフ」。人間も自然の一部であることを顧みながら自然にもっと溶け込もう、というギア提案の旗印となっています。

Q デザインで大事にしていること

社会の変化に合わせて、改革的または普遍的な、独自の価値を見出すこと。



TSUGI LLC.

新山 直広

ブランディングデザイン
デザインディレクター

プロフィール

1985年大阪生まれ。2009年に移住。鯖江市役所を経て2015年TSUGI LLC.を設立。地域特化型デザイナーとしてSAVA!STORE、RENEWの運営など、ものづくり・まちづくり・観光分野を横断し、地域に必要な活動を行っている。

活動実績



ものづくりに触れ、職人を知る、
年に一度の日本最大級の体験型マーケット「RENEW」

全体監修を担当するRENEWは、丹南エリアで開催される年に一度の産業観光イベント。7つの産地間ネットワークを形成し、工房を一斉開放。見学や体験を通じて、解像度の高い購入体験が楽しめます。RENEWを通じて地域の意識が変わり、工房ショップが24店開設、15名以上の移住・就職が実現。これは小さな産業革命だと感じています。



廃棄された野菜や果物で作る紙文具ブランド
(株)五十嵐製紙 「Food Paper」

和紙の原材料不足をきっかけに、同社の次男が夏休みの自由研究で食材から紙を作っていることに着目し、そのまま製品化。持続可能で環境に優しい紙文具ブランドが生まれました。素材によっては原料50%削減に成功し、フードロス問題に対して一石を投じる画期的な取組みとして、中学美術の教科書に掲載されるなど、紙の可能性を広げています。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

デザインを辞書で調べると「設計・計画する」と書かれています。まさに政策デザインはそれに当たります。課題と本質を整理して最適なアウトプットを。福井はこれからアップデートできるはず！！

Q もし私が知事になったら？

自分で考え、行動できる人を増やす。



六感デザイン

野路 靖人

デザイン
ブランディング全般

プロフィール

2007年設立。直感で伝わるデザインを、町医者のようなデザイン事務所を、クライアントとエンドユーザーをデザインで繋ぐ見えないネジのような存在になることを目指しています。

活動実績



「フクシオン」
ネーミング・ロゴ・タグライン

障がいのある方の賃金を向上させ、働く喜びを実感できる「幸せ就労」の仕組みをつくる、福井県障がい福祉課の事業。「商品開発」「民間企業と福祉事業所のお仕事マッチング」「フェアのリデザイン」の3つの分野から、福祉にアクションを起こしていく取り組みです。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

障がいのある方の「幸せ就労」はとても大切な課題なので、長く取り組んでいきたい。福祉業界の解決だけでなく多様性のある社会に繋げていけたらと思います。

Q もし私が知事になったら？

福移民県
自分たちも移民したい
価値感のちがませの県



「越前オクラ園」・「麦の茶菓」
商品企画・ブランディング

フクシオンでの商品開発。
[ハートオブマインド]自然栽培のオクラを美味しく楽しくいただく「越前オクラ園」。中華・鯉だし・カレーの3種のスープを開発。
[びーぶるファン]丁寧に煎った六条大麦の香ばしさ懐かしさをお菓子でいただく「麦の茶菓」。クッキー・グラノーラクッキー・フィナンシェの3つのお菓子を開発。

Q デザインで大事にしていること

伝えることは、繋がること。そのために企業や商品の根本までさかのぼり、理論的かつ感覚的にデザインすることを大切にしています。



株式会社 ヒャッカ

丸山 晴之

プロフィール

1971年生まれ / 愛知県出身
2003年に一種のUターンで帰福し建築設計業を開始
2017年に(株)ヒャッカとして法人化
現在、福井工業大学・福井大学・金沢工業大学非常勤講師

17

建築

活動実績



柄と繪

「材料屋」として業界を支えていた柄の製作会社が従来の階層では考えられない切り口から伝統産業「越前打刃物」を盛上げていく為のプロジェクト。この建築は単なるギャラリーではなく、柄の素材と製品、山謙木工所の技術、蒔絵の楽しさ、様々な鍛冶屋さんの魅力を伝える為の施設であり、そのブランディングの拠点となるものです。当社は建築設計とPR業務を請負いました。



城小屋マルコ

丸岡城のふもと(小さな城山)にある「一般社団法人丸岡城天守を国宝にする市民の会」の拠点兼カフェ。城周辺も、日本各地の状況と同じく空家が增えている状況のなか、その活用モデルとして県のふるさと茶屋整備事業により小さな民家を改修。1年間の設計期間のなか、夜な夜な地域の公民館に集まりハード・ソフトに及ぶ会議を続けました。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

行政の抱える問題は、まさしく『デザインの種』。慣例や前例に捉われない思考をもとに問題解決を図ることが大事です。若手の県職員さんは、その姿勢がすごくみえました。

Q もし私が知事になったら?

福井県 HD をつくり
分社化とベンチャーを推進

Q デザインで大事にしていること

答えは探さない。答えはつくる。：つつい、正解を探しがちになるのですが、捏造でよいのです。

枯れた技術の水平思考：使い古されたモノ・コトを異なる分野で展開すると新しい価値が生まれます。



aiMIKI STUDIO

aiMIKI (アイミキ)

イラストレーター
グラフィックデザイナー
テキスタイルデザイナー
デザインコンサルティング

プロフィール

パーソンズ美術大学(米NY州)コミュニケーションデザイン学科、イラスト学科卒業。卒業後5年間、NYでテキスタイルデザイナーとして勤務。GAP、ピクトリアズシークレット、Topshopなど数々のアパレルブランドのテキスタイルデザインを制作。

18

活動実績



「ふくい元気女子」ロゴデザイン

福井で働き、子育てをする女性が輝いて生きられるよう、応援するための、県のオフィシャルロゴ。女性同士の集まりの中で使うロゴとして、チーム感を高め、グッズとして持っても、うきうきする気持ちになるロゴとテキスタイル制作を目指しました。



タケフナイフビレッジ協同組合 NY展示会向けデザイン

NYでの展示販売会に向け、日本の「わびさび文化」を好むニュー Yorker をターゲットにした新ブランドの立ち上げ・包丁デザイン・ロゴ・ポスター・パッケージなどを総合的にデザインしました。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

隠れたオアシスである福井、県外や海外にアピールできる魅力で溢れています。もっともっと個性を見極め、デザインの力で心を掴み、その質を知ってもらえるチャンスを作れると信じています。

Q もし私が知事になったら?

蕎麦、油あげ、生豆腐等の食材を使い
どのレストランにもバジリアンメニューを用意して頂き
『バジリアンフレンドリーな町』をアピールします!
お、誰もやってないし、世界中から人が来ます。

Q デザインで大事にしていること

ブランディングで大切なのは、作り手本人達も気づいていない、『ここにしかない魅力』を見つけ出し、それをコンセプトとデザインに表現してブラッシュアップしていくこと。



GOOD MORNING

19

三田村 敦

グラフィックデザイン

プロフィール

福井生まれ。東京にて大手企業のパッケージ、CI等のデザイン開発に携わったのち、2012年に真田悦子と共にGOOD MORNING設立。NIPPONの47人 graphic designer選出。福井工業大学非常勤講師。日本パッケージデザイン協会会員。

活動実績



MONOCAN

福井ものづくりキャンパスで伝統工芸やものづくりに興味のある人を対象とした講座のコーディネートやデザイン監修を行っています。福井の企業やクリエイターを講師に迎えた「だれでもデザイン教室」では子供からおばあちゃんまで、新しい気づきやものづくりへのさらなる興味を持ってもらえるよう、ものづくりの楽しさを丁寧に伝えています。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

相手の事をおもいやり、何をすべきか、どうやって伝えるか。事象を分析し最適な答えを導いていく。そういった部分でデザインと政策は同じであると思います。



えちぜん鉄道田原町駅サイン

「おしゃべりなサイン」をテーマにした、立体的なふきだしを使った印象的な駅名表示看板のデザイン。街の中心部にあり学生も多く利用する場所として、賑やかなしゃべり声が飛び交い、柔らかな形状がインパクトと親しみを持って愛されていくものになって欲しいと制作しました。

Q デザインで大事にしていること

相手に感動を与えること。ユニークなものであること。自分が楽しんで作ること。

Q もし私が知事になったら？

人が歩いて集まり
楽しむ場所づくり。



株式会社オルグワークス

20

村中 智宏

ブランディング
広告クリエイティブ

プロフィール

2008年、株式会社オルグワークス設立。代表取締役役に就任。コピーライター・クリエイティブディレクターとして、主に企業のブランディング、広告クリエイティブに従事。

活動実績



株式会社タッセイのブランディング

『「建てる」を応援する会社。』というタグラインの開発、社員職人チーム「TAT」のネーミング・ロゴ開発をはじめ、同社のTVCMやウェブサイト、パンフレット等、広告物全般ならびに採用活動、関連事業におけるクリエイティブを担当しています。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

この取り組みを改善&持続させ、福井県がジュラシック県→ジェラシック県(他の都道府県から嫉妬される県)になれば最高だと思います。政策のもっと根本的な部分にクリエイティブが入っていただけたらさらに大きくジャンプできるはず。

Q もし私が知事になったら？

福育県(日本一子育てしやすい県)にする!



森川不動産株式会社のブランディング

同社およびグループ会社のCIの策定をはじめ、ロゴ・企業コンセプト、TVCM、グラフィックツール、屋外広告等、さまざまなコミュニケーションツールを制作しています。「福のあるまち」をコンセプトにしたTVCMシリーズでは、2012年・2014年・2016年の福井広告大賞を受賞。

Q デザインで大事にしていること

独善的にならないよう気をつけています。また、結果(成果)の出る企画・制作を心がけています。



森 一貴

プロジェクトマネジメント

プロフィール

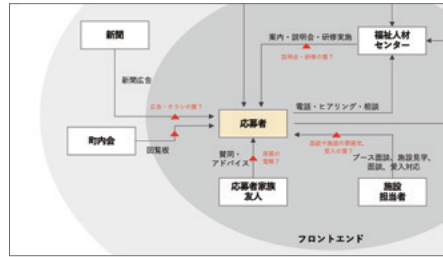
山形県生まれ。「社会に自由と寛容をつくる」をコンセプトに、自由なまちのありかたを探求。福井のものづくりの祭典・RENEW元事務局長。鯖江市内・シェアハウス3軒の家主。現在フィンランド・アアルト大学デザイン修士課程在籍。

活動実績



ゆるい移住全国版

「家賃無料で5つの都市に半年住める」実験的な体験移住プロジェクト。地方を、自然や食ではなく、「コストや試みのハードルが低い場所」と捉えてリフレーミングし、地方自治体の移住促進施策と、若者が生き方を問い直す機会を同時にデザイン。2年間で全国5都市・58名の体験移住を実現した。本事業により、県内へも数名が移住・就職。



介護における「ちょっと就労」人材確保支援

サービスデザインの手法を用いてデザインリサーチを行い、ペルソナやカスタマージャーニーマップなどを制作。現状のプロセスや潜在的なターゲットを取り巻く状況をビジュアライズすることで、本質的な 이슈の抽出を行った。更に、介護業種における人材不足問題の全体像を可視化し、ステークホルダー間での課題認識を支援した。

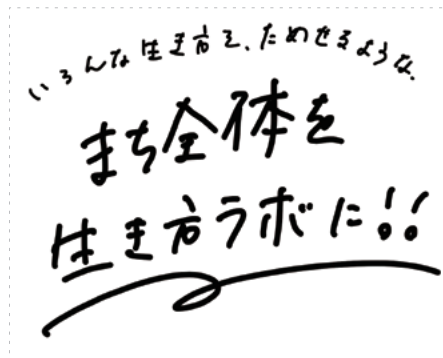
Q 政策デザインを通じて感じたこと

行政領域は人間中心のサービス設計・エコシステム全体の把握・本質課題の抽出など、デザイン貢献の余地が極めて多いです。全国的にも最先端の事例。ぜひみなさんと育んでいけたら幸いです。

Q デザインで大事にしていること

サービスの受け手はどう感じ、どう行動するか？受け手や運営者や、社会全体、関係者全員が幸せになるにはどうすべきか？目の前の人からエコシステムまで、広い視野を持ちアプローチを行います。

Q もし私が知事になったら？



wit design

山本 智恵美

グラフィックデザイン

プロフィール

福井県内外の企業や農家さん、各市町村や公的機関等の各種デザインやブランディングを請け負う。価値を伝えるデザインでモノづくりをサポート。しかげや遊び心を取り入れて、思わず手に取りたくなるような商品づくり・デザインを心がけている。

活動実績



株式会社武生製麺

越前そば お土産用パッケージ

画期的な組箱の手法を活用して、お土産の箱をデザイン。面白いことができないかと案を練り、持つだけで二度見してもらえる(大根おろしながら歩いてる！)、インパクトのあるパッケージを制作。売り場でも存在感のあるお土産になりました。販売数もかなりよいとのこと。



丸岡の魅力を巡る レンタサイクル事業

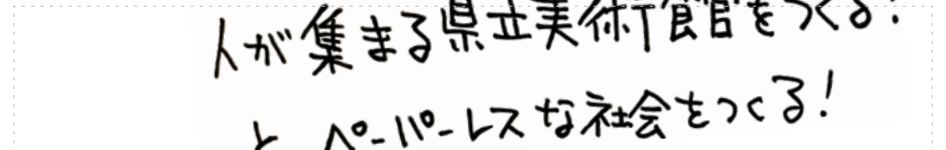
「きゃっチャリ」 ロゴ・リーフレット、のぼり等

リーフレットは、持って帰りたくなるおもしろいリーフレットが作りたいとのオーダーで、いろいろな仕掛けを提案した中でこちらに決定。のぼりは景観を損なわないデザインに。丸岡城主自らがのぼりを担いでPRしているリーフレットです。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

可能性がある！行政の仕組み的な部分にもどかしいと感じる部分もあるが、クリエイターの発想は福井をよくしていけると感じる。たくさんのクリエイターが参加していくと良いと思う。

Q もし私が知事になったら？



吉村 正照

ウェブデザイン

プロフィール

生まれも育ちも福井県。県外での居住経験はない。大学4年の冬季集中講義でデザインに出会い、卒業後は他の職に就いたが、「本当に向いている仕事はこれなのでは？」と30を過ぎてからその世界へ。現在は、大学教員とウェブディレクターをいったりきたり。

活動実績



ヒュッテナナ

自宅からチャリ1分のところにある小屋風の建築。設計は丸山晴之建築事務所(現・株式会社ジャッカ)。平日の日中は仕事場として使用し、それ以外の時間帯は子が遊んだり家庭菜園や薪割りを楽しむ場になっている。地域イベントのスポットとしてご近所さんとの交流も行われる。これからの「仕事と生活」のあり方を示唆している気分になれる場所。



仁愛大学吉村ゼミの地域貢献活動

「クリエイティブのちからでオールラウンドに社会で活躍できる人になる」ことを目標として、デザインやウェブ活用により、さまざまな地域貢献活動を行っている。きくりんLINEスタンプや越前かるたの制作、FUKUI SDGs AWARDSのウェブサイト制作など。

Q 政策デザインを通じて感じたこと

「なんだか、おもしろそう。」はじめはそう思って参加させてもらいました。その輪がどんどん広がっている感じがしていて、福井の未来が楽しみです。

Q もし私が知事になったら？

県庁のホームページを日本一使いやすくします!

Q デザインで大事にしていること

デザインとは「うまくいくように工夫を凝らすこと」であると考えています。より伝わるコミュニケーションのために、できる限りの工夫を重ねるように心がけています。

一緒に、政策デザインしませんか。

協働いただけるクリエイターからのご連絡をお待ちしています。

福井県未来戦略課

TEL 0776-20-0759

MAIL mirai-senryaku@pref.fukui.lg.jp

「イノベーションを生み出すデザイン思考を行政に！」がなぜ始まったのか

昨今、行政、生活福祉、環境、経済、県民などが絶えず変化しながら複雑に絡みあった状況を作り出し、予想だにしない様々な課題が突如として起こってきます。法の下での平等、正確さ、効率といった価値観は、長いあいだ行政を信頼できる組織として導いてきました。しかし、こうした価値観が、行政の変革や新たな時代に向けた取り組みの過程で妨げになりかねないとも言われています。

こうしたなか、2018年5月、経済産業省・特許庁から『デザイン経営宣言』という政策提言が発表され、成熟した国内外の市場で生き残るために、企業が唯一無二のブランド価値を育て、顧客の本当のニーズを捉えて、イノベーションを起こす必要性を説いています。特筆すべきは、最後の項目に「行政サービスの実践」という項目があることです。ここでは、1. 提供者視点ではなく利用者視点で行政サービスを設計するために、「デザイン思考」の導入を推進する。2. 有望プロジェクトを発掘し、「デザイン思考」を導入することによって、より質の高い行政サービスを実践する。(抜粋)と提言しています。

福井県では、令和元年度からデザイン思考による「政策デザイン」の事業を実施してきました。県職員の皆さんが、県内デザイナーやクリエイターとともにワークショップに取り組みました。デザイン思考プロセスは、散乱している情報を整理し、課題を抽出して仮説に変換し、その仮説を検証しつつ製品やサービスを創出していきます。このデザイナーの発想法やプロセスがイノベーションに有効だとされているのです。既成の枠に捉われない斬新な思考法により、人々が気づかないニーズを掘り起こして、事業構想を行える特徴があります。多くの人は、本質を探る前に、すぐに「何を(What)」「どのように(How)」という方法論を探ろうとします。しかしそれでは抜本的な解決には結びつきません。重要なのは方法論ではなく、「なぜ？」を自身に投げかけることで本質に触れ、正しく目標設定をすることです。「なぜこの施策を行うのか？」という根本的な問いに納得のいく答えが得られて初めて、そのプロジェクトをスタートする意義が生まれます。「なぜ？」を突き詰めて本質に迫ると、取り組むべき事業のビジョンも明確になります。行政の施策を供給する側の思い込みを排除して、事業の対象を観察する。そうして気づいた潜在的な

ニーズを、行政の価値と意志に照らし合わせる。誰のために何をしたいのかという原点に立ち返ることで、既存の発想に縛られない事業構想をたてることができます。本県の政策デザインの取り組みにおいても、デザイン思考法をベースにして現場の状況や多角的な課題をつかみ、今までとは異なる新しい発想が生み出され、成果が出てくるようになりました。ポイントになるのは、生活者である人間観察を起点として発想することです。システムではなく人間を中心に据えることなのです。

イノベーション活動はデザイナーの発想と似ていると述べましたが、課題も見えてきました。デザイン思考には、行政組織の意思決定基準を構築するプロセスは含まれていないため、デザイン思考を導入する前に、大局的な視点で意思決定の基準を明確にしておく必要があります。また、行政組織には営々と培ってきた組織文化が存在し新規性を嫌う保守的傾向の力が働くことがあります。そうなるとデザイン思考の活用が難しくなってきますから、新しいことに積極的に挑戦しようとする組織文化を深耕啓発していく必要があります。これにより、デザイン思考プロジェクトを受け入れ実行できる体制が実現できます。また、デザイン思考を適切に理解し活用したとしても、組織の根幹であるさまざまな要素を確立しないと、成果を出すことは難しく、またデザイン思考で可視化したプロセスを実行するだけでは、大きなイノベーションは生まれません。発想のやり方を変える。コミュニケーションの仕方を変える。場の空気を変える。そして小さく始めて大きく育てる。様々な工夫をして、どれだけ今までと違う発想を生み出せるか、それを実行できる組織風土が醸成されることを期待したいと願っています。

福井県政策デザインアドバイザー

西山 雅彦



1992～	福井県デザインセンター開設に携わる
1994～99	自治研修所にて「行政にデザインを活かす」講座講師を務める
1993～	・産業界向けデザイン思考による研修講座企画運営、商品開発支援 ・県内外の幅広いデザイナー等とのネットワークを持ち、県内産業界にデザイン支援業務を統括
2017～	中小企業庁 よろず支援拠点コーディネーター就任 企業・商品ブランド価値を高めるコミュニケーションデザイン、商品デザインブラッシュアップ、デザイナー等とのマッチングなど、生活者の視点で一気通貫したアドバイスを行う
2019～	福井県政策デザインアドバイザー就任
2021～	福井県信用保証協会 経営支援強化事業専門家就任



パブリックデザインラボ ふくい
Public Design Labo Fukui

マークデザインコンセプト

福井県庁には地名の由来となった「福の井」という井戸があり、ワークショップで使用している付箋のイメージで、福井の「井」の字を表現しました。ラフなラインで角を丸くし、ランダムに配列することで自由や楽しさを取り入れたデザインです。アイデアが湧水のように溢れてくることを表現しています。人々が集い、水が豊かな井戸のように、常に素晴らしいアイデアや情報が溢れ、おもしろい政策が次々と生まれる場所を目指します。

令和4年9月

福井県未来戦略課
[パブリックデザインラボふくい]

デザインセンターふくい

協働するクリエイター